

会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第4回会議		
開催日時	平成29年（2017年）1月31日（火） 18時00分～20時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	12人
公開しなかった理由			
出席者	委員	赤井委員、赤尾委員、加藤委員、國定委員、斉藤委員、宗前委員、大澤委員、廣瀬（淳）委員、廣瀬（史）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他		
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第4次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について 2. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について 3. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の検討スケジュールについて 4. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 5. その他 		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 4 回会議 議事要旨

日 時	平成 29 年（2017 年）1 月 31 日（火） 18 時 00 分～20 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出 席 者	赤井委員、赤尾委員、加藤委員、國貞委員、斉藤委員、宗前委員、大澤委員、廣瀨（淳）委員、廣瀨（史）委員 計 9 名
欠 席 者	なし
事 務 局	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野
傍 聴 者	12 名
案 件	1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について 2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について 3. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の検討スケジュールについて 4. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議） 5. その他
資 料	【資料 1】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の検討スケジュール 【資料 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案） 【参考 1】第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申書（当日配布） 【参考 2】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問書（当日配布） 【参考 3】第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）施策の括り 【参考 4】総合計画等調査特別委員会における「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」への意見について（当日配布）
会 議 録	下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の過半数の出席を必要としております。本日は委員全員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

●案件と資料について

事務局

（案件と資料について説明）

●「1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について」

●「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について」

会長

「1. 第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）の答申について」、「2. 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）の諮問について」、合わせて事務局よりご説明をお願いします。

事務局

まず、会長から市長に「第 4 次豊中市総合計画基本構想（素案）」の答申をご提出いただきたいと思います。

（答申）

続きまして、市長から審議会に「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」の諮問をさせていただきます。

(諮問)

続きまして、市長から挨拶をさせていただきます。

市長
(挨拶)

会長
ありがとうございました。
市長におきましては、他に公務がございますので、ここで退席されます。

(市長退席)

会長
続いて、案件の3つ目に入りたいと思います。

●「3. 第4次豊中市総合計画基本計画（素案）の検討スケジュールについて」

会長
「3. 第4次豊中市総合計画基本計画（素案）の検討スケジュールについて」、事務局よりご説明をお願いします。

事務局
(資料1について説明)

会長
専門部会は各種団体等との意見交換がメインになるということですが、ただいまのご説明について、ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

委員
専門部会に参加する団体はどのような基準で選定されたのかご説明いただきたいと思います。また、豊中市の場合、福祉の分野においては社会福祉協議会が全国的に高い評価を受けています。豊中市には活発に活動されている団体が多いので、どの団体に参加してもらうか、その選定が難しいことは承知していますし、事前アンケートはおそらく回答していただいているとは思いますが、個人的には社会福祉協議会にも来ていただいた方が良いのではないかと思います。事務局としてはいかがお考えでしょうか。

事務局
事前アンケートは、社会福祉協議会にもご回答をいただいております。参加団体については、基本計画の各章に関連する分野で活動を活発にされている2、3団体を選定させていただきました。本市の社会福祉協議会は全国的に高い評価を受けており、活動内容を聞く機会も多いことから、今回、福祉の分野からは、障害者福祉の団体にお越しいただき、ご意見を頂戴したいと考えております。

会長
選定は事務局が行われたようですが、選定基準としては「活動が活発である」というのが1つの基準になっているようです。どちらかという、いわゆるコミュニティ系よりも、アソシエーション系の団体が多いように思います。

事務局
第1専門部会は基本計画の括りの関係上、アソシエーション系の団体が多くなっています。一方、第2専門部会では「新千里南町2丁目西自治会」「新千里北町地域自治組織」といったコミュニティ系の地域団体にお越しいただくことになっております。基本計画の第3章で地区計画などのまちづく

り、第5章で地域コミュニティの活性化などの施策を掲げているため、第2専門部会において地縁型の団体を選定させていただいております。

会長

事務局の説明でも、社会福祉協議会から事前アンケートの回答をいただき、ご意見やご意向などを聞いているとのことでした。第1専門部会は、8団体に来ていただくことになっており、時間が許せば、社会福祉協議会にも来ていただいて、直接お話を伺っても良いかもしれません。

委員

もちろん時間の問題がございまして、無理にとは言いません。ただ、豊中市において実際に地域福祉に関わっている団体として、社会福祉協議会の存在は非常に大きいものだと思います。もし可能であれば、第1専門部会に加わっていただいた方が良いかと思っております。

会長

社会福祉協議会に参加していただくかどうかについては一度、事務局で検討していただけますか。

事務局

社会福祉協議会との日程調整もありますので、一度、事務局として調整を図らせていただきます。先ほども申しましたが、事前アンケートとして、「活動から見えてきた『豊中のまちの課題』」や「課題解決に『必要な取組み』」などはお伺いしております。また、日程調整が図れなかった場合には、社会福祉協議会にヒアリングして、審議会でご報告することも可能かと思っております。いずれにしても、ひとまず社会福祉協議会と調整させていただきます。

会長

「資料1（別紙）」の会場イメージを見ると、ラウンドテーブルを予定しているみたいですが、各団体2名ずつ来られるという理解でよろしいでしょうか。

事務局

当日、基本的には、各団体1名の方にご参加いただく予定となっております。

会長

1名ずつのご参加ですね。了解しました。ラウンドテーブルは良いと思います。その他、ご意見、ご質問等いかがでしょうか。

委員

（特になし）

会長

専門部会につきましては、このかたちで開催したいと思います。
続いての案件に入ります。

●「4. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議）」

会長

「4. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（審議）」、事務局よりご説明をお願いします。

事務局

（資料2、参考3、参考4について説明）

会長

ただいま基本計画における全体の構成、17施策、リーディングプロジェクトを説明いただきました。また、総合計画等調査特別委員会からも具体的なご意見を頂戴しておりますので、それも参考に、意見等いただければと思います。

委員

総合計画等調査特別委員会の位置づけについてご説明してください。

事務局

今年度設置された総合計画等調査特別委員会は、市議会議員の皆さんの中で、総合計画について調査していただいている委員会で、これまでに4回開催しております。資料4は、その特別委員会で基本計画についてご意見をいただいたものを取りまとめた資料です。

委員

市議会議員の皆さんからの意見ということですね。

会長

当委員会としましては、市議会議員の皆さんのご意見もある程度踏まえながら、答申案としてまとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

どこからでも結構です。もし施策の抜け落ち等があればご指摘いただければと思います。章立てについては基本構想の段階である程度固められたと思っておりますので、その下位の施策あるいはリーディングプロジェクトについてご意見を頂戴できればと思います。

委員

第3次豊中市総合計画と比べて、全体としてどう変えていこうとしているのか。事務局が想定している方向性について教えてください。

事務局

第3次豊中市総合計画から大きく変わっているのは、施策の立て方です。第3次豊中市総合計画では、66施策あったのですが、今回は17施策にまとめております。施策を細かく分けすぎると、章と施策の関連性が曖昧になり、市民の方に理解してもらいにくいという思いから、今回は17施策に絞り込みました。ただ、単純に施策数を減らすだけではカバーできないところもでてきますので、17施策の下に「施策の方向性」を掲げることで対応しております。

委員

「施策の方向性」で、前回の66施策をカバーしているということですか。

事務局

「施策の方向性」が前回の66施策に対応しているという構成になっております。もう一つの変更点は、「選択と集中」の考えから、リーディングプロジェクトを掲げたことです。

会長

66施策から17施策になっても、掲載されている領域的には変わっていないということですね。事務局としては総合計画のスリム化ということは考えていますか。

委員

総合計画ですので、網羅性も必要かと思えます。

事務局

事業が完了したものについては削除した箇所も当然ございますが、基本的に市の取組みは網羅的に記載しております。ただ、総合計画等調査特別委員会からもご指摘がありましたが、表現については、ニュアンスを読み取りづらくなっている箇所もありますので、その点につきましては検討していきたいと考えております。

会長

これまで網羅的にやってきたものを、「選択と集中」の視点で、取組みを絞り込んでいくということは考えているのか。もちろん絞り込まないということであれば、それはそれで結構なのですが、その点につきまして、事務局としての方向性をお聞かせいただければと思います。

事務局

事業が完了していないものについては、継続的に取り組んでいこうと考えております。ただ、「選択と集中」という意味で、重点を置くものについては、それが分かるように示していきたいと考えています。

委員

外部の人間は全体の構成を見ますが、市民や市民団体等の方は自分に関連しているところを重点的に読まれると思いますので、やはりきめ細かく網羅しておくことは必要だと思います。

会長

他にいかがでしょうか。

委員

構成としては第3次豊中市総合計画と比べて、非常に分かりやすくなっていると感じます。「子ども・若者」に重点を置いているということも分かりやすいですし、リーディングプロジェクトを出しており、全体としてメリハリがあって、バランスがとれているように思います。

意見としては、施策とリーディングプロジェクトについて、それぞれ1点ございます。

まず施策についてですが、「2-1 自立生活支援の充実」に高齢者介護や障害者福祉など、行政の予算のかなりのウェイトを占める分野が入っているように思います。また「2-1 自立生活支援の充実」と「2-2 保健・医療の充実」の分け方に関連するのですが、今は保健、医療、福祉、教育などの分野が協力・連携しながら包括的に対応していくというのが時代の潮流としてあるかと思います。しかし、現段階ではそうした包括的な視点が盛り込まれていないように思います。

リーディングプロジェクトですが、p.52にあるように「まちへの愛着を感じている人と住み続けた人と思っている人の割合」を地域別で出すことに少し疑問を感じます。地域別というよりもむしろ、南部の経年変化の方が、南部の人たちの愛着度や定住意向の増減が分かり、その評価が出来るので、南部の実情がより明確になるように思います。地域別よりも南部の人たちの気持ちの変化を捉えたほうが掲載するグラフとしては効果的ではないでしょうか。また、「南部地域の人口推移」で南部の人口減少の状況はよく分かるのですが、それがなぜ起こっているのか、原因についての分析への言及が弱いように思います。原因として、まちへの愛着度を想定しているのであれば、違和感を感じますし、無理にこじつけたかのように捉えられる危惧があるかと思います。

会長

「2-1 自立生活支援の充実」と「2-2 保健・医療の充実」の分け方については、難しいところだと思います。2-1と2-2は連携したほうが良いというご意見ですか。

委員

どういうふうにしたら良いのか、まだ具体的な代案はないのですが、やや縦割りになっているような印象を受けます。現場では分野間の連携や包括的な対応が求められていますので、それをどう表現するかというのが問題かと思います。

会長

今のご意見に対して、事務局、いかがでしょうか。

事務局

2-1と2-2の分け方については、事務局としても試行錯誤した結果、現状のかたちに落ち着いたという経緯があります。今後「地域包括ケア」が重要になってきますし、本市では介護保険事業計画の中で、地域包括ケアの考え方などを示しています。ただ、地域包括ケアにつきましては、本市の基本方針を、現在議論し策定を進めていて、その動きも踏まえながら、施策の分け方あるいは見せ方について

て、検討を続けていきたいと考えております。切れ目ないサービス、福祉を展開していかないといけない中で、施策としてどう出していくか、引き続き、検討させていただければと思います。

会長

もう1点、リーディングプロジェクトのデータについてはいかがでしょうか。南部地域では出ていく人が他の地域よりも多すぎるということが問題となっており、その原因を愛着がないからというのは適切かどうか分かりません。ただ、住み続けようとは思わないのは確かであり、愛着や住み続けるだけの魅力が南部地域にはないということだと思います。このロジックは、100点満点ではないけど、60点くらいはあげてもいいかなと思います。

委員

南部地域の人口減少は、社会減、自然減のどちらが要因としては大きいのでしょうか。

事務局

社会減が大きな要因だと考えております。南部地域から他の地域への流出が多く、南部地域の人口減少につながっています。

委員

私は南部地域の土地勘がないのですが、お話を聞いている限り、ご高齢の方が非常に多くて、新しい人が入ってこない。そして、ご高齢の方が亡くなることも増えている。そういう状況かと思っていたのですが、流出も多いということですね。

p.52の掲載データでは2015年の数値は61.1千人でしたが、補足資料では58.5千人になっていますが、想定以上に人口減が進んだのですか。

事務局

出生率や移動率などを加味して推計値を出していたのですが、想定以上に社会減が大きかったと思います。

会長

南部地域の空き家率はいかがでしょう。

事務局

地域ごとの空き家率は把握できていませんが、市全体では15%程度となっております。空き家を一軒一軒調査できないので、モデル地域を調査して、その結果から推計値を算出しています。

会長

南部地域では、将来的に空き家が最大の問題になってくると思いますので、地域ごとのデータが出せるようでしたら、出していただきたいと思います。

委員

会長にお伺いしたいのですが、空き家を放置し続けると最終的にどういった問題が発生することが想定されるのでしょうか。最悪のシナリオとしてはどういうことが起こり、どんな対策が必要になるのでしょうか。例えば、極端に地価が下がり続けてしまったが故に、かえって開発が進んだりすることもあるのでしょうか。

会長

南部地域は、接道要件を満たさず、新築できない場所が多くあります。ご存知のように、空き家を放置してしまうと、不法投棄などの荒廃や、防災・防犯上もよろしくありません。東京の世田谷では、区が土地を買い上げ、公園にするといった事例もあります。

委員

公的な地上げということですね。

会長

しかし、そのようなことができるのは、お金持ちの自治体だけであって、多くの自治体はなかなかできないかと思います。空き家が市場に乗らないというのも問題ですし、市場に乗って、なおかつ建て替えができたなら良いでしょうけど、それもできない場合も多く、当面は放置せざるを得ないのかもしれないかもしれません。空き家や空き地を束ねて管理できるようになれば、まだ開発の可能性もありますが、5年単位ではできないように思いますので、かなりの時間を要する気がいたします。

空き家問題について、豊中市は、どんなシナリオを想定されているのでしょうか。

事務局

本市の場合、流通空き家が7割程度を占めており、市場に乗っている空き家も多いのですが、今後は管理不全の空き家が増えてくる可能性があるかと想定しております。本市としましては、まだ件数は少ないものの、空き家の所有者と空き家を使って何かしたいという方のマッチングなどもしております。少しでも空き家を増やさないような取組みを進めていきたいと考えております。

会長

庄内の住環境整備事業は40年以上前から取り組まれていて有名です。木造の密集市街地を整備する取組みで、何十年も取り組まれてきて、都市計画道路ができたり、長屋などが不燃化したり、公共住宅の建て替えや耐火なども行われたりしています。しかし面積率としてはまだ少ない状況で、全域を整備するには100年や150年はかかるように思います。人口減少が進んでいる中、空き家も増えていくとなると、投資効果が薄れますから、住環境整備自体ができなくなってくる可能性もあるわけです。だからこそ南部地域をリーディングプロジェクトにして、ハードとソフトの両面から取り組んでいこうということだと思います。南部地域を重点的に取り組むことで、豊中市のイメージアップにつながり、結果的には北部地域の方にもメリットがあるというストーリーが描けると良いのではないのでしょうか。

リーディングプロジェクトについてのご意見等がございましたらお願い致します。

委員

リーディングプロジェクトで南部を取り上げたのは良いと思いますが、市民が見られたときに、「なんで南部だけ取組むの」と思う人も多いように思います。どういう理由で南部を取り上げたのか、説明を入れておいたほうが誤解を招かないように思います。p.1にも「重点的かつ総合的に取り組む事業を『リーディングプロジェクト』として位置付けます」とは書かれているのですが、もう少し詳しく、例えば、先ほど会長が言われたように、南部の課題を解決することによって、豊中市全体の価値が上がるといったようなことなどを追記されたほうが、市民としてもリーディングプロジェクトを応援しやすいように思います。

また、南部は高齢化率も上がっているということですが、それを弱みとして捉えるのではなく、逆に強みとして捉える発想の転換があっても良いのではないのでしょうか。例えば、お年寄りが住みやすいまちとして打ち出していく。お年寄りが住みやすいのであれば、若い世代も安心して暮らせるまちだと思うでしょうし、そういう切り口で若い世代を誘導していくことも可能なように思います。必ずしも高齢化率の上昇を悲観的に捉えなくても良いのではないかと思います。

会長

p.52にどういったデータを乗せるか。地域イメージ調査は広域的にやると使い勝手は良いのですが、測地的にすると公表できない場合が多いので、その点は配慮すべきかと思います。

南部地域の人口減少率が他の地域と比べても著しく高いのは、看過できない問題だと思います。

事務局

リーディングプロジェクトの位置付けや南部地域の発展が市全体の活性化に寄与するという点につきましては、p.52でも触れています。南部地域の複雑化している課題の解決をめざすことによって、市全体の価値を向上させるなどの波及効果を狙いたいというのが事務局としての考えです。高齢化率が上がっていますが、高齢者の方が働ける場としても南部地域は魅力的な場所だと思っております。高齢者の方のコミュニティづくりや、若い人たちが暮らしたくなるようなまちづくりをしていければ良いと考えております。

会長

その他、いかがでしょうか。

委員

南部地域活性化プロジェクトですが、豊中市による公的な取組みだけで成果をあげるのは難しいかと思えます。なんらかの民間資本の投資、特に大手企業による経済投資も考えておく必要があるのではないのでしょうか。その点については事務局として、いかがお考えでしょうか。

事務局

今後の民間投資をにらんで、3月に企業フォーラムを開催する予定です。民間との協働によるまちづくりを進めていくというのが、これからのキーポイントだと思っており、なるべく民間の方にも情報を発信するとともに、地域の方の協力もないとまちづくりは進んでいきませんので、市民、事業者、行政が協力しながら、南部地域のまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

会長

p.52に「多様な主体との連携や民間活力の効果的な活用を図りながら」とありますが、この文章に民間資本は想定されているのでしょうか。民間活力にはいろんな意味があって、資本もあれば、労力や知恵などもあります。

また、神崎川の大阪市側が今、大きく変わりつつあります。大規模な区画整理を行い、新しいマンションができており、ほとんど即完売状態だと聞いています。昔、人の流れは、大阪市から豊中市へ流入していたのですが、これからは豊中市から大阪市へ流出する可能性がありますし、実際にそういう現象も起こりつつあるかと思えます。

委員

現状として、南部地域の人どこに転出しているのか分かっていますか。

事務局

南部地域ではやはり大阪市への転出が圧倒的に多く、吹田市や尼崎市への転出も多くなっております。また、域内移動についても、転出超過という状況となっております。

委員

これまで協議してきた内容が反映されているように思います。南部地域が抱えるような課題は、豊中市だけでなく、日本全国で噴出している課題だと思います。ものすごい勢いで世の中は変わっていますが、理屈ではなく、実際にやってみる、行動を起こしてみるということが大事です。理屈をこねていても、課題は解決しません。「これは良い」と思える取組みがあれば、すぐに行動を起こすことが一番大事だと思います。行動を起こせば、子どもも変わってきますし、高齢者も変わってきますし、まちも変わってきます。私は南部地域で操業してきましたが、良い変化も悪い変化もずいぶんと見てきました。経験として、行動を起こして初めて理解してもらえることを実感しています。まちづくりは敵対することではなく、相互の助け合いや支え合いで成り立つものだと思いますし、それが南部にはあると思います。南部地域にはそういう資源が豊富にありますので、それをどう活かしていくかというのが重要になってくると思います。民間企業による経済資本の投資というのもさることながら、どんな理念や構想を持ち、どういったことに取り組んでいくのかということを経験の方に示して、徐々に活動の輪を広げていくことが何よりも重要なことだと思います。リーディングプロジェクトの南部地域活性化プロジェクトはおもしろい取組みだと思いますので、ぜひ挫けずに取り組んでほしいと思います。魅力のあるまちになれば、人口も戻ってきます。

委員

リーディングプロジェクトの主な取組みはどれも重要だとは思いますが、南部地域の課題として高齢化率の高さや人口減少があげられている中で、若い世代をはじめとする人口の流入を促していくためには、雇用についても考える必要があるように思います。主な取組みの「にぎわいとゆとりのあるまちづくり」で、産業振興についても書かれていますが、雇用のあるところに人が集まると思っていますので、主な取組みに雇用創出を掲げてほしいと思います。

会長

南部地域は対大阪市の関係で言えば、すごく立地の良い場所だと言えます。川を渡れば大阪市内、雇用は近くにいっぱいあるとも考えられますので、南部地域に雇用を生めれば、南部地域の定着率が高まるとはなかなか言い切れない側面もあるように思います。15分で大阪市があるという立地条件にも関わらず、人口が減っているということも、南部をリーディングプロジェクトとして取り上げた要因の1つかと思います。もちろん雇用は重要だとは思いますが、南部地域で雇用を創出しても、地域内で雇用されるとは限りませんし、難しい問題かと思えます。

事務局はいかがお考えでしょうか。

事務局

南部地域の職住近接はほかの地域よりも多いというデータがあります。また、庄内駅の乗降客を分析しますと、大阪音楽大学が立地しているという要因もありますが、外から入ってきて庄内駅周辺で遊んで帰るといった人が多いというデータもあります。こうした特徴があるのは、阪急宝塚沿線では豊中駅と庄内駅の2つです。

今後の南部地域のまちの姿としては、南部地域に住んで、大阪市内等に働きに行くようなライフスタイルなのか、あるいは南部地域での職住近接のライフスタイルなのか、どういった将来像を掲げて、まちづくりを進めていくかということについて、来年度以降に「南部地域活性化構想」を策定することを予定しておりますので、その中でしっかりと検討していきたいと考えています。

南部地域には就労困難な方が他地域に比べて多いというデータもあります。そういうことを踏まえますと、長期的なまちづくりの初期段階では、南部地域に雇用を創出するのは意味があると思えます。しかし、それだけでなく、ステップアップしていくことも検討する必要があると考えております。

会長

南部地域に着目するのは、皆さん同意されているとは思いますが、南部地域のまちづくりのあり方が職住近接になるのかどうかは今後の「南部地域活性化構想」で検討されていくということですね。

委員

南部地域で小中一貫教育を考えられていますか、参考として進めようとしている都市はありますか。

事務局

特定の都市を参考をしているということはありません。小中一貫教育というと、施設一体型のものをイメージされる場合が多いのですが、豊中市としてめざしている小中一貫教育というものは、小中の9年間を通じて、同じ教育方針のもとで子どもたちを育てていこうとするものです。具体的には、小学校高学年から教科担任制にして、多くの先生が児童・生徒に関わるような環境をつくっていくことで、教育環境と学習環境をより良くしていこうとしています。先ほど特定の都市を参考にしているということではないと申しましたが、実際には先進都市へ視察に行き、良いところを参考にしながら、小学校1年生から中学3年生までが交流できるような仕組みも構築していきたいと考えております。

会長

小中一貫校はメリットもありますが、地方では小中一貫にせざるを得ないという地域も出てきています。つまり児童・生徒数が減ったために、過疎対策として小中一貫校にするという文脈です。南部地域の場合、この文脈と一致しているところが少なくないと思うのですが、いかがですか。

事務局

南部地域には小学校の6年間、クラス替えが出来ないという学校も現実的に出てきてはいます。少人数の良さというのももちろんありますが、人間関係の固定化や、中学での限定されたクラブ活動、試合に出られないといった状況など、人数が少ないことによる弊害も出てきています。過疎対策として、小中一貫教育にせざるを得ないというような消極的な意味ではなく、もっと積極的な意味で小中一貫教育を実施しようと考えています。

委員

スケジュールは怎么样了なっていますか。

事務局

教育委員会では、3つの中学校と6つの小学校を北校と南校の2校に統合することを考えております。まずは、北校を先行して進めようとしております。北校は平成34年開校を予定しています。

委員

3つの中学校と6つの小学校を北校と南校の2校に統合しても、ボリューム的に問題ないのですか。

事務局

問題ございません。

委員

学校の跡地利用についても、検討はされていますか。

事務局

その点は地域の方も大変、心配されているところです。学校は児童・生徒だけでなく、地域の方も使われます。また学校が統合されることによって、通学距離が長くなるといった問題もありますし、今後、検討をしていく必要があると認識しています。

委員

通学バスなどは、想定されていますか。

事務局

今のところ、通学バスは考えておりません。

委員

徒歩で通学するということですね。ハード整備については、いかがですか。

事務局

3つの中学校と6つの小学校を、全て廃校にして、新たに2校を新設するという考え方です。

委員

文部科学省の補助金等は、利用できますか。

事務局

その方向で調整を進めております。

スケジュールの詳細について、ご説明させていただきます。北校は現在の庄内小学校の場所に開設したいと考えており、平成29年度に計画策定、平成30、31年度に設計、平成32、33年度に建設工事し、平成34年度に開校というスケジュールを想定しております。

また同時に、南部地域では南部コラボセンター構想というのがあります。これは南部地域の老朽化した公共施設を複合化しようとするもので、この施設を現在の第6中学校の敷地に建設し、北校と同じく平成34年度にオープンさせることを予定しております。

委員

その他の廃校になる場所は、こども園への転用などを予定されていますか。

事務局

学校跡地の活用については、まだ具体的に決まっています。現在、地域の方に色々なご意見・ご要望等をいただいております。これまで学校が果たしてきた役割を踏まえながら、今後検討していきたいと考えております。

委員

リーディングプロジェクトでは、主な取組みに「子どもたちの元気があふれるまちづくり」が掲げられているように、子どもに重点が置かれていて、子育て支援というのはかけ声だけではなく、実際的な取組みが求められています。昨年、「保育園落ちた日本死ね」のブログが注目されましたが、そういう切実な思いを抱えている方も多いわけです。小中一貫校を新設することによって、学校の跡地が生まれますが、それを積極的に捉えて、戦略的に子育て関連施設等を設置することで南部地域の魅力を高めることはできると思います。

もちろん、全てを公的な施設にするというのは現実的ではありません。ある程度、民間資本による開発がしやすいような条件を整えることによって、外部資本が流入しやすいようにしていくことは必要ではないかと思います。どういう条件であれば、民間資本を呼び込みやすく、人が流入し、好循環を生むことができるのか、事務局として想定されているシナリオがあれば教えてください。

事務局

学校が変われば、地域が変わり、まちが変わるということはあるかと思います。京都市の事例では、人口も増えたということも聞いておりますし、小中一貫校を設置することで、地域に好循環を生んでいくことは見込めるかと考えております。

南部地域は古くから住環境整備事業を進めてきておりますし、同時に拠点整備も進んできた部分もあります。しかし、これまでは行政の投資が民間投資の呼び水にあまりなっていないと、大きな課題だと認識しています。今回の総合計画を策定していく中で、民間企業、特に不動産を扱われている企業5社に対して、南部地域の立地条件をはじめ、南部地域の可能性についてヒアリング調査を実施しましたが、梅田から10分という立地条件、水運、人口など、概ね南部地域のポテンシャルは高いとの評価でした。ただ、ポテンシャルは高いものの投資するきっかけがないというご意見もありました。事務局としては、今回のリーディングプロジェクトや来年度策定する「南部地域活性化構想」で、行政としての方針を示し、南部地域に民間資本を呼び込めるようにアピールしていきたいと考えています。そういう思いもあり、3月に企業フォーラムを開催しようと考えております。

委員

リーディングプロジェクトの中身には、異論ありませんし、ぜひ実施してもらいたいと思います。実際にプロジェクトを進めていくとなると、南部コラボセンターのような単独の事業の他にも、ルーチンの仕事がたくさんあって、課や係に割り振られて粛々と事務をこなされていくことになるのだろうとは思いますが、その進め方として、いわゆる司令塔機能を持ったところがある方向性を打ち出して、それぞれの仕事を統合していくということがおそらく重要になってくるように思います。計画策定後のことですが、計画を実行していく段階で、各課や各係の仕事をシナリオに沿ったかたちでどう統合していくか、庁内体制をどう整えるかということを考えておくことが非常に大きな意味を持つように思います。毎日決められた仕事を行うけれども、それが結果的に南部地域のためになっていくというような二重性を持たせないと上手くいかないと思います。南部地域に限定したプロジェクトというのは市全体の予算から見ると、それほど多くはないかと思いますが、ルーチンの仕事に意味を持たせていく必要があると思うのですが、その体制をどういうふうに考えていくかということが、行政に課せられた今後の課題と感じます。

事務局

本市ではかつて庄内再開発室があり、ハード整備を中心に整備を行ってまいりました。来年度、当課の事業として「南部地域活性化構想」を策定する予定です。リーディングプロジェクトは、前期基本計画の5年間で実施していく内容ですが、「南部地域活性化構想」はもう少し長い期間の構想にしようと考えており、場合によっては30年といった長期のまちづくりの構想になることも想定しております。来年度すぐに、南部地域のための庁内体制を整えるのは難しいかもしれませんが、ご指摘いただきました体制整備についても検討が必要だと考えております。

委員

先ほど、南部地域の活性化のためには民間資本が欠かせないと発言しましたが、民間投資を促す一方で、そこには一定の秩序のようなものが必要だと思います。民間による乱開発や、民間の利害関係から、地域住民が立ち退かなくてはならないような事態も生まれる可能性も否定できません。そうならないために、地元住民の合意形成を図るというプロセスが重要になってくるように思います。

会長

リーディングプロジェクトの内容については、委員の皆さんから一定の支持は得られたかと思えます。リーディングプロジェクト以外に、全体構成や専門部会についても、ご意見等があればお伺いしたいと思えます。

委員

第3次豊中市総合計画と比較すると、全体的にシンプルな文章でまとまっている印象を受けます。第3次の基本計画は施策が細分化されていて、施策間の違いが一般市民には分かりにくかったように思えますが、今回は17施策に絞られ、見やすく、分かりやすくなったように思えます。

また、施策ごとに「市民・事業者の主な取組み」が明記されていますが、これがあることによって、市民もまちづくりに関わっていかないといけないということが分かりますし、市民にはどんなことが期待されているのかということが分かりやすく整理されていると思えます。

かつて千里地域は万博などで人口が急増しましたが、その後、高齢化や若い世代の流出等で人口が減って、中学校などでは学年に1クラスしかないようなところもあったようです。しかし、そこから新しくマンションが建ち、近年は人口が増えて、まちが活気づいていると聞いています。南部地域はかつての千里地域と同じように、住居が古くなって、それと同時に高齢化も進行し、若い世代もあまり魅力を感じず、南部地域から流出しているような状況だと思えます。その結果、南部地域から北部を始めとした、新しい住宅のあるところに域内移動されている方も多いのかもしれませんが。データ上では、南部地域の方は「まちへの愛着を感じている人」が少ないようですが、私の実感としてはそんなことはないように感じています。数は少ないですが、私が実際にお会いしたことのある人は、まちを愛している方がたくさんいますし、地域のお祭も活発です。そういう側面も一方では、南部地域の特徴だと思えます。南部地域は、子育てするのに住みやすい環境もありますし、豊南市場など商業も活発で、他地域の市民にとっても魅力的な部分はありますので、そういう特性を活かしていくことで、人が増えて、今の千里地域のように地域が活性化してくれば良いと思えます。

小中一貫教育ですが、これは南部地域に限った取組みなのか、それとも南部地域でモデル的に始めて、順次、市全域に拡大していこうという計画なのか、どちらですか。また、南部地域の活性化の取組みを進めた結果、小中一貫校がマンモス校になるようなことは考えられませんか。そのあたりについて教えてください。

事務局

南部地域で小中一貫校を開校した後に、市域に取組みを拡大していく計画は今のところ聞いておりません。ただ、この取組みの有効性が確認されれば、モデルとして拡大していくことも検討する可能性はあるかと思えます。小中一貫校の取組みの目的は南部地域の活性化のためだけではなく、市全体の活性化のためですので、場合によってはそういうこともあるかもしれません。

会長

南部地域での小中一貫校の取組みを他の地域の人が羨ましがって、南部にマンションなどを購入して、子どもを小中一貫校に通学させたいと思うような人が出て来れば、この取組みが豊中市のためになったと言えるのかもしれません。

委員

基本計画の「現状と課題」の「市民の意識」に、平成29年度の数値を示すことになっていますが、目標値は設定されませんか。目標値とまでいかなくても、上向きなのか下向きなのか、めざすべき方向性などを示しても良いと思えます。

事務局

事務局としましても、当初は目標値を設定することを考えましたが、議論を進めていく中で、設定した指標だけで施策全体を評価していくのは難しいという結論になりました。施策の評価につきましては、別途、政策評価の中で指標を設定し、進行管理をしていこうと考えています。その際は、市民意識だけではなく、活動指標など他の指標も設定し、複合的に評価をしていこうと考えております。

委員

進行管理としてPDCAをすることはあちこちでされていますが、いつまでに何をやるかということが書かれていないように思えますし、これを見て、曖昧だと感じる方もいるかもしれませんが、総合

計画の性格としては、そこまで詳しく設定するものでもないという思いもあります。総合計画の各施策の下には、それぞれ事業があると思いますし、事業レベルでは目標値等も設定されていると思いますので、そこの関係性みたいなものが分かるようになっていけば良いと感じます。

また、第3次豊中市総合計画の成功や失敗、反省などが今回の総合計画にどう反映されているのかが分かるように、何かしらの工夫をし示せれば良いなと思います。

南部地域のリーディングプロジェクトは、p.53に「主な取組み」とありますが、市域全域で行うようなこともここに書かれていますので、南部地域に限定した取組みと、市域全域で行う取組みを明確に分けて書いたほうが良いように思います。小中一貫教育は南部地域だけだと思いますが、「誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり」に書かれていることは、南部地域だけではないと思います。

事務局

まちの不燃化は、特に南部地域で進めていきたい取組みです。特有の取組みだと思います。

委員

「安心して子育てができる環境づくりを進めます」というのは南部地域だけで進めるようなものではなく、豊中市全域で取組むべきことのように思いますし、南部地域で特別に取組むようなものをより明確化した方が分かりやすくなるように思います。もちろん細かい話は、「南部活性化構想」や「南部コラボセンター構想」で書かれるのかもしれませんが、今後どこで検討していくのかというのを示しても良いかもしれません。

事務局

小中一貫校は南部地域で建設しますが、小中一貫教育はすでに市内全域で行っています。

委員

p.52、53は南部地域活性化に焦点をあてているので、「小中一貫教育」ではなく「小中一貫校」にしてはいかがですか。

事務局

表現については精査させていただきます。

委員

先ほど意見がありましたが、南部地域の人口減少の要因分析から、「主な取組み」につながるような流れにした方が良いと思います。要因に対応した「主な取組み」を書くというのは難しいかもしれませんが、現段階では、小中一貫校や南部コラボセンターといった拠点施設ができることで、まちの魅力が高まり、人口が増加するといったようなストーリーだけでも良いかもしれませんが、もう少し因果関係を意識した構成にした方が分かりやすいように思います。

会長

ご意見を参考に、表現は事務局でご検討いただきたいと思います。他にいかがですか。

最後に一点だけお聞きしたいことがあります。

「参考3」の施策の括りで、1-2の「社会教育」と4-3の「生涯学習」は、どう区別しているのか。

委員

「社会教育」という領域は、公民館が主体となった取組みです。豊中市は1949年に社会教育法が施行されて大阪府下で初めて公民館をつくった先進的な都市として知られています。豊中市をはじめ、早い段階で公民館をつくった都市は、公民館機能が市民センターに移行されて、現在「社会教育」としては主に学校支援を行っています。子どもたちの健全な育成にどう関わっていくか、それが「社会教育」の目下の課題であり、「社会教育」と「生涯学習」を分けて書くのは良いと思います。

会長

時間がきましたので、審議は終了させていただきたいと思います。

●「4. その他」

会長

最後に「4. その他」について事務局よりご説明お願い致します。

事務局

(連絡事項の伝達)

会長

ただいまのご説明に対してご質問等ございませんか。

委員

(特になし)

会長

これで第4回豊中市総合計画審議会を終了します。

ありがとうございました。

●閉会